



セブンスデー・アドベンチスト教団



アドベンチスト

はらじゆく

May



「韓国の英語ブーム」

北アジア太平洋支部コミュニケーション部・出版部部長

新名 忠臣

韓国の外国語ブーム、特に英語熱には驚くべきものがあります。日本語や中国語も第二外国語として選択されていますが、英語の人気には及びません。若者はもちろんですが、主婦や働き盛りの男性も、熱心に勉強しています。

常識的には主婦は日中に、児童・生徒・学生は下校後、サラリーマンも勤務後にと考えますが、韓国では登校・出勤前の朝7時から外国語学校はクラスを始めるのです。

彼らは寒さ厳しい冬でも、しかも夜明け前の真っ暗な中でも通うのです。私は幾つかの日本語学校や英語学校で講演したことがありますが、学んでいる人々の熱心な態度には感心させられます。

さらに留学も非常に盛んです。大学生や高校生の留学は納得できます。しかし、小学生の娘を中国に留学させた両親には驚きました。

「お互いに涙の別れでしたか」

と聞きますと、その母親は、

「娘はバイバイと元気に去って行きました」とケロツとしていました。実は、この両親は中学1年生になる息子はフィリピンへ留学させるのです。

このような留学熱に感心しているところへ、もっと驚くことに遭遇しました。これから小学1年生になる男児が、その祖母に連れられてフィリピンへ留学したのです。その子の両親はちゃんといっているのですが、お婆さんが世話をするというのです。

私が彼女に、

「フィリピンに誰か知っている人がいるのですか」

と聞くと、

「いいえ。しかし、神様がおられます」

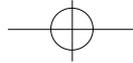
と指を天に向けるのです。彼女は気丈夫ですが、その子は決して元気のいい、大胆な子には見えません。しかし、外国語を習得するには早い時期に限るということなのでしょう。ともかく、これほどまでに真剣なのです。事の良し悪しは別として、一事に全力を傾ける生き方には敬服させられます。

新約聖書の「コリント人への第一の手紙」9章23節でパウロは、

「福音のために、わたしはどんな事でもする。わたしも共に福音にあずかるためである」

と述べています。パウロは人を救うためには、主にあつて何でもしたのです。





森家さん パペスマ おめでとう!

「えい!!」

もりや もとこ
森家 幹子

はじめまして。中央教会には3年前くらいからときどき行かせて頂いています。私の性格は頑固で疑い深いです。良くとれば慎重とも言えます。だから、神様の存在が分かる根拠がない限り洗礼を受けることは出来ないと思っていました。数々の祈りは応えられない。神様がいのなら出てきてと願っても全く現れない。私に分かる形で働きかけてくれない以上、神様を信じると言っても無理だと思っていました。しかし、思い切って受浸を決心したのです。

この一年は、祖母の死、親友の死、両親の老い、自分の老い、仕事では役立たずのみっともない姿等、様々な場面に遭遇しました。人は辛い中にあると、思っていたより弱い自分に気付くと思います。私は自分でもゾツとなるような恐ろしい自身の内の姿を突きつけられました。とても人に言える内容ではありません。自分にはもう一人の恐ろしい自分がいて、その自分とこれからも生きていかなければならないと思った時、大きな無力感に襲われました。自分の力ではどうにもならない、神様しか変えてくれる方はいないと感じ、神

様を信じたいと強く思いました。

しかし、信じるということはとても難しいと思います。自分でも自分を信じられないことがたくさんあるのに、どうして他者を信じることが出来るでしょうか。神様は顔も見えません。迷っている時に、板東先生が「神様は私達に理解できるだけの力を与えてくれた。しかし信じて初めて理解できることもあるんだよ。」と言って下さいました。私は、前がよく分からなくてもいざという時は飛び込む勇気が必要なのだと思います。そして、洗礼日の前日になってやっと決心がついたのです。

当日は水に入る前、バンジージャンプを飛びような心境でした。怖かったです。また、先生が水から引き上げて下さらなかつたらどうしようと思な心配をしていました。

今私は、信じる信じないは結果であって、神様を信じたいと思ったのならその思いを持ち続けることが大切だと自分に言いかけしています。(3月30日 受浸)



キッズ・コーナー

こんな会話を耳にしました

まさと
正人君は、竜平君とお家で仲よく遊んでいました。
正「竜ちゃん。天国って、とってもいい所なんだよ。ライオンも噛まないんだって。」
竜「フーン。ぼくも正人君といっしょに、天国に行きたいな。」
正「でも、ダメだよ。」
竜「どうして？」
正「だって竜ちゃんは教会に行っていないもん。」
竜「……？」 (夏)

原宿 パスファインダ・クラブ の行事予定

(5・6月)

5月11日(土) 野外礼拝(代々木公園)

5月25日(土) 26日(日) 一泊キャンプ

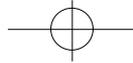
*対象：小学生以上(身の回りのことが自分でできること) 参加希望者は前もって申し込んでください。

6月 8日(土) 野外礼拝(代々木公園)

6月23日(日) 防災訓練(墨田区・本所防災館)

*特に明記のない場合は、小学生未満の人でも、保護者同伴で参加できます。詳しい情報については、教会に住所をご連絡下さい。案内書を郵送します。メールで情報を得たい場合は、harajuku-pfc@hotmail.co.jp メールをお送り下さい。(原宿PFC)





「アリガトウ。31年も、お世話になりました」

高橋 ジャスミン (3月16日「教会発表」再録)

日本に来て31年経ちましたが、今初めて皆さんの前で話せることは、とても幸せです。私と私のきょうだいたちがこの中央教会に来たのは1971(昭和46)年です。そのときは、ラフォーレの所にある古い建物でした。間違いなければ、私たちは初めての外人の中央教会員だったと思います。今思えば、インターナショナル・チャーチの教会員が毎週、大人だけで130人、子供が20人、合計150人にもなるとは思いませんでした。聖霊がマーク先生を導かれました。そして、驚くことに、マーク先生は私たちの最初の先生でした。それは24年前のことでした。そのときは、私と二人のきょうだいだけが生徒でした。そして今度は、マーク先生と家族、そして私と、一緒に、同じ時期に日本を出発することになります。

板東先生に、この時間を私にしてくれるようお願いしました。なぜなら、皆さんに感謝の気持ちを言いたかったからです。

とくに、私の家族について思えば、1980(昭和55)年の終わり頃と1990(平成2)年の頭まで、この日本人の教会の皆様、私の母が危なかったときに、3回も特別のお祈りをお願いしました。そのときはいつも、渡部長老がお祈りしてくれました。それでうちの母が元気になりました。そのおかげで8年間生きることができました。その間に3回、日本に遊びに来ることができました。そのときも、この教会に来てました。母は7年前に亡くなりましたが、皆さんに「ありがとう」のお礼を言いたいです。

この教会に来られないと思い、とても悲しいですが、だからトロントに行ったら日本人教会のメンバーになるつもりです。トロントはナイアガラの滝まで車で2時間です。向こうの住所を

TICに連絡しますので、だからトロントに来る予定があれば、必ず連絡して下さい。今年はまだガイドできないので、一年後に来て下さい。喜んでガイドします。



ところで、私の主人も一緒に引越しします。主人はアドベンチストじゃないけど、何回かこの教会に来たことがあります。そして、トロントに行ったら、必ずトロント日本人教会に行きます。だから、主人がアドベンチストになることを願っています。向こうには、日本人の友達が全然いないから、向こうのほうが、アドベンチストになることがもっと簡単でしょ？ 主人のためにもお祈りして下さい。

この教会のことはたくさん思い出があり、絶対に忘れないでしょう。残念だけど、皆さんの一人一人の名前を覚えられませんでした。けれども、顔を覚えているのです。皆さんも私の名前を知らないでしょう。

その人たちのために、私の名前は、^{ジャズミン}Jazmin ^{タカハシ}Takahashiです。ヨロシクとサヨナラ。

長い間にお世話になりました。心から、いろいろ、ありがとうございます。《草稿の原文はローマ字》

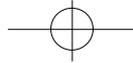
Mrs. Takahashi

Jazminの新住所

15 Alexis Road, Thornhill,
Ontario L3T 6Z2 Canada
《Tel (905)762-9560》

俳句
イスター聖書ひもどく「日かな
居を移し簡素な生活花菖蒲
席呉れし二分刈涼し汗光る
頬染めて席立ちし子の白きシャツ(保夫)





「命^{ヌチ}ドウ宝^{タカラ}」

千先 稜

月日がたつのは早いもので、沖縄に移り住んで2年が経ちました。方言はいまひとつですが、生活にも慣れました。異国情緒あふれたここ沖縄の地で子供たちに神様を伝える働きができることを感謝しております。

来た当初は、驚きの連続でした。一年を通して暖かな亜熱帯性気候(平均気温が20度程度ですが、冬は海から吹きつける風がとても寒いです)肌を突き刺すような夏の日射し、雲ひとつない澄みわたった青空や透き通る青い海、今まで見たこともない植物、独特な味わいの食物、本土にはない南国情緒あふれた家並みなど、すべてが私にとって初めてであり、新鮮でした。今では少しやみつき気味ですが...

さて、沖縄は文化だけでなく、そこに住む人たちも独特です。彼らのおだやかで、温かな人柄は、人をなごやかな気持ちにさせてくれます。方言(地域によって全く違うそうです)からもわかるとおり、素朴でしかもおらかな話しぶりは、聞くものの心に何ともいえないぬくもりを感じさせずにはいません。

このような人々の中で生活できることは本当

に幸せです。生徒もとても純朴で、聖書の話に熱心に耳を傾ける子が多いように思います。(背景的に、沖縄県はキリスト教の教会が多く建立されている土地でもあるので、幼少時代聖書に触れている子が多いようです。)

また、地方の教会には、お年を召した方々(特に女性)が多く出席しておられます。教会員は、おしなべてとても明るく、信仰深い方々が多いです。沖縄は戦時中、日本で唯一の地上戦があった所です。ここに生まれ育ち、戦時を生き延びて、悲惨な過去の傷を負いつつも、明るく前向きに過ごしておられる方々の姿には、頭の下がる思いがします。

沖縄の有名な言葉に「命^{ヌチ}ドウ宝^{タカラ}」というのがあります。「命こそ大切な宝である」という意味を表すこの言葉を、私はかみしめるとともに、この地に召されて今私自身が生かされていることを神様に感謝したいと思います。

(沖縄三育中学校教諭)



原宿彩彩

3月の第1安息日は「世界女性の祈りの日」。中央教会でも初の試みとして、言語の異なる四つのグループが集まって一つのプログラムを企画しました。当日、集会室で英語、日本語、スペイン語、ポルトガル語にガーナのグループが参加、プログラムはTICのフィリピンの方々が中心になって計画して下さいました。「テレビのように間をあげずに!!」を合言葉に、日本代表は、熊谷さん率いる家庭会の皆様が特別讃美歌、お祈り、お話と見事な流れでお役目完了。スタンバイができてるのが心配されたラテングループやガーナのグループは、男性も大勢参加して盛り上げて下さいました。そうしたプログラムの合間に2~3人ずつに分かれて祈りの時間を設け、すべての人がお祈りに参

加できたのは有意義でした。一つ屋根の下で安息日を過ごす皆さんが同じ思いで一つの部屋に集えた記念すべきプログラムでした。6月の7~9日は「世界婦人伝道の日」です。去年は琵琶湖でしたが、今年は沖縄で71歳にしてご活躍の韓国のソウ先生の特別講演が予定されています。来年はマレーシア・クアラルンプールでアジア南北太平洋支部合同の企画もあるようです。女性の動く範囲もどんどん広くなりすばらしいことです。

(横山絢子記)





「ありがとう！」

学生宣教師・英語学校教師 シャーリーン・マシューズ

これまでの日本における宣教の仕事は、この上なくやりやすくし甲斐のあるものであり、私の人生に際立った経験としていつまでも心に残ることでしょう。数知れぬ体験を通して、だれにも増して私に近しい存在は神その方であることを示すために、神様は私を日本にお遣わしになったのだと、確信しています。私は、それが食べ物であれ、お金であれ、何かのプログラムに対する心の準備であれ、知らない所へ赴くことであれ、あるいは恐れの中にいることであれ、物事を思いわずらう必要はないのだということを学びました。

特に神様がお示しになったのは、何事も心からの信仰をもって臨めば、その努力に報いて下さるということです。2002年の初めに、私たちは児童のバイブルクラスを開くことを決め、プログラムの計画を始めるとともに、信徒伝道会のご協力を得て、ピラマキをしました。1月28日、最初のクラスには、子供16人、母親5人が出席。子供たちはこの上なく活気に溢れ、たくさん歌を歌い、静粛にまた一心にお話に聞き入ってくれました。まさかこんなに大勢出席してくれるとは思っていなかったのですが、再び神様は、たとえ私たちの信仰がからし種のように小さくとも、山をも動かすことができるということを教えて下さいました。

台湾での2年にわたる伝道のご奉仕は、日本で

のそれに比べると幾分ゆったりしたものでした。宣教師が12人いる、もっと規模の大きい学校で、責務もそれほど多くなかったのです。ところが原宿では、たった2人で、スケジュールもきつい。手ごわい難関とあってよいでしょう。でも神様は私に、そうした難関こそ神様と共に親密に歩みを進められるようにと私たちを導いてくれる恵みなのだを教えて下さいました。難関が立ちはだかると、私は神様の御約束を思い起こしました。御約束をお果たし下さいと祈ると、神様はすべて叶えて下さったのです。

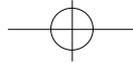
難関は依然そこにあり、ときおり私はこれを恐れるあまりくじけそうになります。しかし、そんな時に神様は、船のかじ取りをするのは神様ご自身であって、私の任務ではないことを思い出させて下さいます。教会の皆様がこれまでロアンヌと私に賜ったご好意とお心遣いに感謝します。また、学校のために援助とお祈りをして下さいまして有難うございます。神様は学校を祝福して、新しい生徒をお与えになりました。彼らの中には、生きて行く上で本当に神様の御手を必要としている人がいるのです。これからも、とくに生徒たちのためにお祈りとお支えを、と切に願ひ上げます。そして何よりも、友であり慰め人であり導き手であり養い主である神様、そのほかにも私が必要とするいかなる存在にもなって下さる神様に、心から感謝を申し上げます。

熊谷幸子さんの最新作 ・ご案内

『辻正行さんのコーラスこそわが人生』 がそのタイトル (清流出版発行 B6型234頁 定価=本体1400円+税) です。実はこの合唱の名指揮者について熊谷さんがお書きになるのは 『「歓びの歌」の本—辻正行ハーモニー人生』に次いでこれが2冊めです。辻さんご本人のたっぴのご希望で実現したこの本 紹介はまたもや一気に読み、清々しい読後感を味わいました。楽しく読めて全頁内容濃密、特に当代の一流作曲家7人のメッセージが詰まった終章は圧巻。一口で言うところ「歌(うこと)が好きになる本」 “潤い少ないこの「時に合った」素敵な書”です。(合唱する人って、なぜあんなに顔の筋肉を動かして嬉しそうに 「面相」するのかと不思議でしたが、謎が解けました！)

(YY)





バイブル豆事典

「地層にみる創造論」 足跡は何を語るか

米国西南部のグランドキャニオンは、コロラド川を挟んで大渓谷が数百キロメートルも続いている壮観な国立公園です。川底まで千数百メートルの切り立った断崖絶壁には、ほとんど水平な地層がお行儀よく順番に積み重なっている様子が手に取るように見られます。

地層の大部分はすっかり固結して堅くなっている石灰岩ですが、その中にはいろいろな化石が埋没しているのです。化石の多様さ、その量の多さ、堆積の様子を考えると、どう見ても非常に広範囲、大規模の大異変によって引き起こされた生物の大絶滅という事件が起こったであろうと想像が付きまします。

このグランドキャニオンの断面の中腹に、「ココニーノ砂岩」と呼ばれている薄い斜めの地層が幾つも積み重なって全体として水平になって露出している地層があります。その薄い斜めの地層を剥いてみると、現れた層理面には大量の小動物の足跡が化石として残っているのですが、その化石の足跡の方向は95パーセントが斜面を上に向かっていて、足跡のほとんど全部が、砂の傾斜面を上に向かって走った両生類、爬虫類、哺乳類動物たちのものであるとは、一体何を意味しているのでしょうか？

大昔のある日、世界中のおびただしい数の動物たちが、一斉に、必死に斜面を駆け上る。どうして？ 何に追われて？ きっとあの大嵐の中の箱舟（創世記6～9章）の窓からは、それが見えなにかがいりませんね。
（『サイエンス・オブ・ザ・タイムズ』編集長・山本 哲也）

5月のスケジュール

- 5月～6月 福祉募金
 5 / 4 (土) [説]板東洋三郎牧師 & 子供のお話
 役員会
 長老会
 /11 (土) [説]花田憲彦副牧師
 子供野外礼拝（代々木公園）
 週報 & アドベンチストはらじゅく発送
 小羊クラブ
 /18 (土) 音楽礼拝
 ビジターズディ
 理事会
 /25 (土) [説]板東洋三郎牧師 & 子供のお話
 小羊クラブ
 /25 (土) ~ 26 (日) PFC一泊集会

教会のホームページを開設しています。

<http://www.sda.gr.jp>

エデン ED園だより

先月、息子が幼稚園に入園しました。通園は、幼稚園バスで、家の前まで迎えに来てくれます。息子は、乗り物が大好きなのですが、幼稚園バスは別でした。最初の2日間は、バスが来る前から、バスには乗らないと泣き叫んでいました。いつまで泣き続けるのだろうか心配していたのですが、3日目には泣かずに、バスに乗り込んでくれました。このことを母に話したところ、私も小さいとき、保育園のバスには乗りたがらず、最初の2日間は、泣いていたそうです。これも、親子である証拠なのでしょう。 (Y.M.)

発行：東京中央教会コミュニケーション部 * 発行人：板東洋三郎 * 編集人：前中靖司

[住所] 〒150-0001 渋谷区神宮前1-11-1 03-3402-1517

* スタッフ：久木田明夫・佐藤敏子・寺内雅子・芳賀洋・平山茂子・森武靖子・山口保夫

